

「播磨国風土記」は なぜ “ 残された ” のか？



■ 開催日

5 月～平成 25 年 3 月の毎月第 4 金曜日（10 回講座） 18:00～19:45

※11 月は第 5 金曜、12 月は休講、詳細は裏面参照

■ 場 所

加西市健康福社会館 2 階 研修室 1・2（北条町古坂）

■ 受講料

1 回 500 円 ※全講座申し込みの場合 3,000 円

■ 定 員

100 人

■ 申込・問合せ先

ふるさと創造部秘書課 (Tel)0790-42-8701 Fax0790-43-0291)

教育委員会文化スポーツ課 (Tel)0790-42-8773 Fax0790-43-1803)

※ お申込みは、裏面申込書にご記入のうえ秘書課又は文化スポーツ課へ郵送、FAX 下さい。

「播磨国風土記」はなぜ残されたのか？〈全 10 回講座〉

1299 年前の官令により全国各地で編纂されたはずの風土記。現存するものはわずか 5 つ。『出雲国風土記』『常陸国風土記』『肥前国風土記』『豊後国風土記』、そして『播磨国風土記』に過ぎません。この 5 つの風土記が残されたのは偶然なのでしょうか？現存の 5 大風土記について考えていくと、それらが古代の正史にはない重要な記述を含んでいることに気づきます。いや、むしろ『古事記』『日本書紀』の記述とはうまくかみ合わない記録が、おおいに見られるのです。

播磨国風土記に書かれているのは、玉丘古墳の根日女(ねひめ)伝説だけではありません。本当は、播磨の国が、賀茂(毛)の国が、そして加西が日本の中心に成り得たのでは…というなぞが秘められていたのです。

国際日本文化研究センターの光田和伸准教授をお招きして「播磨国風土記」を「古事記」「日本書紀」の記述との比較の中で、文学者の視点から読み解き、1300 年のときを経て、そのなぞに迫ります。

	開催日	内 容
第 1 回	5 月 25 日	『播磨国風土記』はなぜ残されたのか？ —残された風土記類の共通点とは
第 2 回	6 月 22 日	「加古川」という川の不思議。「石の宝殿」をめぐる謎。
第 3 回	7 月 27 日	消えたヤマトタケル伝承！ —加古川市域のヤマトタケル伝承が『播磨国風土記』記録されていない謎
第 4 回	8 月 24 日	「大歳神」とは誰か？ —「大歳神社」の存在が明かす播磨国の昔
第 5 回	9 月 28 日	三木市志染の里と加西市玉丘古墳 —ヲケ・オケ両皇子と根日女伝説
第 6 回	10 月 26 日	「加茂族」とは何をした集団か？ —海人族・安曇氏とのかかわり
第 7 回	11 月 30 日	鉄を鍛える、石を切る —小野市と三木市の伝統の背景
第 8 回	1 月 25 日	西脇市の「石上神社」と加東市の「闘竜灘」—まぼろしの王都
第 9 回	2 月 22 日	出雲国と大和建国 —鍵は播磨国がにぎっていた
第 10 回	3 月 22 日	『播磨国風土記』が発信していること —まとめ

〈『播磨国風土記』はなぜ残されたのか？ 受講申込書〉

ふるさと創造部秘書課 (FAX0790-43-0291) 教育委員会文化スポーツ課 (FAX0790-43-1803)

申込講座	第 回のみ ・ 全講座 (10 回)		
(フリガナ)			
氏 名			
住 所			
電話番号		FAX	